

## 「NASDAQ100指数」の銘柄変更について ～コロナ禍において躍進した企業などを新規採用～

12月11日、米NASDAQ100指数の構成銘柄の定期変更として、新規採用と除外される各6銘柄が発表されました。変更の適用は12月21日からとなります。新規採用の中には、新型コロナウイルス感染拡大による環境変化などを受けて、大きく成長した企業も含まれています。例えば、テレワークを円滑に進めるサポートツールなどを開発する「アトラシアン」や、自宅で受講可能なフィットネスクラブなどを展開する「ペロトン・インタラクティブ」などが挙げられます。一方、除外銘柄には、感染拡大が向かい風となっている、大手旅行会社「エクスペディア・グループ」や、化粧品販売を手掛ける「アルタ・ビューティ」などがあります。

同指数は、世界最大の新興企業向け市場、ナスダックにのみ上場する、金融業を除く時価総額上位100社で構成される株価指数であり、GAFAM(Google(持株会社アルファベット)、Apple、Facebook、Amazon、Microsoft)に代表される世界最大級のテクノロジー企業が顔を並べています。組入銘柄の定期変更は、毎年12月に、同年10月末時点の株価および11月末時点の発行済株式総数を基に、以下のルールに則り行なわれます。

- ① 既存の構成銘柄の場合、ナスダック市場における時価総額の上位100位以内であれば継続採用
- ② ①が100社未満の場合、101位から125位までで、かつ前年の定期変更時に上位100位内の銘柄を順に継続採用
- ③ ①および②で100社に満たない場合、既存の構成銘柄以外の中で最も時価総額が大きい順に採用

なお、構成銘柄がナスダック以外の米国市場にも上場した際などには、臨時の変更が行なわれることとなります。2020年4月以降では、4月に、オンライン会議システムを開発する「ズーム・ビデオ・コミュニケーションズ」、7月には、新型コロナウイルス向けワクチン開発で注目される「モデルナ」が新たに採用されるなど、計6回の臨時変更が行なわれました。

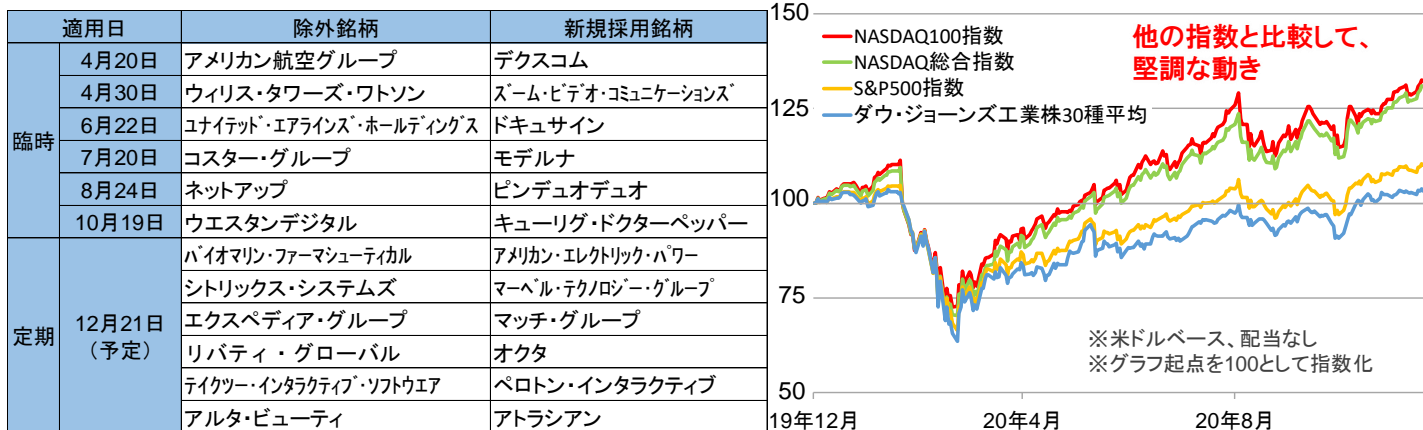
このように、NASDAQ100指数は、常にナスダックに上場する時価総額の大きい銘柄が組み入れられるようになっています。そのため、大きな環境変化を乗り越えて成長を続ける銘柄が構成銘柄となることが多く、同指数への投資を行なうことで、厳選された米国の新興企業などの成長の果実を享受できるのではないのでしょうか。

### NASDAQ100指数の入れ替え銘柄

(2020年4月以降)

### 代表的な米国株価指数の推移

(2019年12月31日～2020年12月18日)



※記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものではありません。

また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものではありません。

NASDAQなど信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。